

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 19 日

【評価実施概要】

事業所番号	2190800033		
法人名	有限会社 きずなの里		
事業所名	みやまの里		
所在地	岐阜県山県市富永754番地4 (電話) 0581-52-3988		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年2月10日	評価確定日	平成21年3月4日

【情報提供票より】 (平成 21 年 1 月 21 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 9.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	24,000~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (120,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 (期間:1年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 21 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81.8 歳	最低	70 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鳥沢クリニック、岐北厚生病院、歯科むらかみ医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、数10メートル離れて清流武儀川と接する静かな環境が広がっている。利用者それぞれが持てる能力を発揮しながら、穏かな暮らしに満足の表情が見られた。利用者が好きな趣味や特技を活かしながら、自由に、笑顔で暮らしたいとの思いを支え、その意欲と生きがいを引き出すための「心のケア」に、管理者による強いリーダーシップが発揮されている。また、職員を大切にするとする事業者の職員重視の方針に応じて、職員自らが、日々学び、気づきを高めながら、認知症ケアの質の向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は、直ぐできるものから取り組み、改善につなげている。同業者との交流では、今後も課題となっているが、運営推進会議では、討議内容を有効に活かすための継続した努力が見られる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目:外部4)
	全職員で改善課題を出し合い、現状に留まることなく、地道に前進・発展させようとする自己評価となっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月ごとに開催されているが、形式化されており、現状の議題や討議内容では、十分に会議の機能が活かされていない。外部視点の中心となる行政や自治会、民生委員等は保守的で、意欲が見られない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目:外部7, 8)
	開所して2年目と日は浅く、家族が気楽に意見を言える関係には、まだ十分とはいえないが、対話と気づき、信頼を築きながら家族の真意を引き出すように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目:外部3)
	自治会や老人会に加入していないが、地域の行事には積極的に参加している。ホームの開所記念日と夏祭りには、近隣の住民を招き、交流の機会を設けている。日常的に野菜類の差し入れ、ホームの役割りの理解、利用者の徘徊にも理解があり、あたたかい協力が得られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、利用者の穏かで安心な暮らしを支えるために「誠心誠意まごころこめて」とする事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関正面に掲示し、ミーティングでは全職員で唱和・共有しながら、表情豊かに笑顔を引き出し、相互に感謝し合う「心のケア」に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・老人会には加入していないが、地域の行事の案内が届き、参加の機会が多い。近隣住民とは、親しい付き合いがあり、野菜の差し入れや、徘徊の利用者を手を引いて送り届けてもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は、評価の意義を理解しており、改善計画シートで把握管理しながら、改善の達成状況を評価する仕組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月ごとに開催されているが、形式化されており、現状の議題や討議内容では、十分に会議の機能が活かされていない。外部視点の中心となる行政や自治会、民生委員等は保守的で、意欲が見られない。	○	役職にとらわれず、広く地域の中から、近隣や複数の家族に出席してもらう等参加者も見直し、サービス向上に繋がる身近なテーマを柔軟に設定し、内容の充実を図りたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月ごとに市が主催する介護支援専門員連絡会議に出席している。また、市の介護相談員2名を毎月受け入れ、指導を受けている。市の健康課へは、意見を求めたり、アドバイスをもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「みやまの里便り」を2ヶ月ごとに発行し、金銭出納、行事案内と共に家族に送付している。利用者個々の暮らし振りは写真入りで、個別の便りとなっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見等は、個人別にノートに記録してもらい、家族に説明する仕組みがある。職員の利用者対応への意見があったが、職員指導を徹底して改善している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	経営者の職員を大切にするという基本姿勢があり、人間関係、業務内容の調整、メンタルケア等に努めており、異動は最小限となっている。直近の異動はなく、馴染みの関係が維持されているが、代わる場合は、十分な引き継ぎを行い、言葉がけや雰囲気づくりに配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、自主的に外部研修に参加している。その結果は、内部の勉強会に反映させる仕組みを取っている。利用者の表情が明るくなるケアの実践が、管理者による指導で行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者から学びたいという意欲は持っているが、同業者との実質的な交流は、今後の課題となっている。	○	行政が仲介する形で、同業者とのネットワーク作りが策定中であり、今後に期待される。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初期面談の際には、管理者と担当職員がかかわり、入居後も、安心感がもてるような会話と雰囲気づくりに心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	多彩な能力・特技を持った利用者が多く、手芸・習字・俳句・調理などから実地に学ぶ機会が多い。農業経験者からは、さつま芋の茎の調理方法を教えてもらい、早速、食事の1品にするなど、共に支えあう関係ができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の多くが、好きな趣味・特技を活かしながら自由に、笑顔で暮らしたいとの思いをコミュニケーションの中から把握している。敷地の外れにある猫の墓（本当はイタチの墓）参りを、日課にしている利用者もいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見を聞き、アセスメントと合わせて職員間のケア会議の結果を、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護認定の更新時や3ヶ月毎に定期的な見直しをしている。利用者の状態に変化が生じた場合は、家族や関係者と話し合い、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携を基に、受診・通院の支援、特別な外出支援、希望により一時帰宅する際には、家族が直面するトラブル全般に対する相談、および、連絡体制を取り、家族に安心して利用者を迎えられるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はホームの協力医でもあり、隔週ごとの往診がある。また、隔週ごとの訪問看護の支援も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化・終末期に対する意思の確認と、重度化の段階で意思を再確認することで、終末期の方針を定めている。家族・医師・介護者との十分な話し合いと連携が、終末期受け入れの前提となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への対応では、言葉がけをしながら、了解を取るように徹底している。プライドを傷つけたり、差別をしないように配慮し、個人記録等は安全に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、本人の選択を優先している。レクリエーション、手芸、家事手伝い、外出、テレビ観賞等、思い思いの暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、簡単な配膳準備や片付け作業に参加している。職員も同じ物を一緒に摂り、利用者の食べるペースに合わせ、楽しい会話に努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日を定めているが、状況により柔軟に対応している。利用者の了解を得て順番表を随時変更しているが、問題は生じていない。菖蒲湯・ゆず湯など季節の風習、入浴剤、足浴も楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの手づくり作品を、各所に数多く飾り、褒めあうことで、意欲を喚起し、作る楽しみにつなげている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺は、散策する環境に恵まれており、天候の様子をみながら、日常的に外出している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず、利用者の意思で自由に入りができるように努めている。さらに、安全に十分配慮し、見守りを徹底することで対処している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の指導のもとで、避難訓練を実施している。同時に、救急救命法・スモークマシンによる煙のなかでの脱出訓練を実施している。近所の応援体制についても話し合いが進められている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は、管理表に記録し、全職員で共有しながら健康状態に配慮している。食材や調理方法も、個々の状態や好みに合わせ工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造づくりの明るい空間があり、調度品や利用者自慢の手づくり作品が数多く飾られている。居室の表札とセットになっている木彫りのプレートに、ほのぼのとした暖かい雰囲気づくりの工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や小物類が持ち込まれている。本人手作りの作品や家族の写真を飾り、居心地よく過ごせるように配慮している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。